



1. 笑顔・親切・丁寧
2. 清潔で安全な環境づくり
3. 全身の健康(健口)管理と予防

院長より

昨年の夏は雨が多く、一昨年は猛暑と毎年のように異常気象だ！と言っているように思います。今年はエルニーニョ現象の影響であり暑くないという予報が出ているようですが、どうでしょうか。温暖化の影響か、日本の夏も亜熱帯地域のスコールのような雨の降り方になってきている様な気がします。豪雨や台風に見舞われなければよいですね。

さて、今回は予約についてお話しさせていただきます。昔と違って今はほとんどの歯科医院が予約制になっています。なぜでしょうか。歯科の場合は一人の患者様に対する治療に時間がかかるからです。虫歯治療といっても削って詰め物をする、型を採る、根の治療をする、などとたくさんの種類があります。抜歯や歯周病の外科治療の場合は特殊な道具も使います。抜歯と虫歯治療の患者様が同時にいられてもドクターが一人の場合はお一人の治療しかできません。また、立て続けに外科処置が入ると器具の滅菌が追い付かない場合があります。また、長時間枠が必要となる複雑な治療もあります。予約制でないときちんとした治療計画が立てられないため、その場しのぎの治療になってしまうのです。

患者様からすると、「この枠が空いているから入れて」という感覚かもしれませんが、私たちは前後、横の治療内容を考え、そしてできるだけ患者様のご希望に沿うようにと予約を取らせていただいております。また朝礼・終礼時に予約表を見て、それぞれの患者様の治療に対する確認(スタッフの割り振りや器具の確認も含めて)を行い、最善の治療をご提供できるようにと日々努力をしております。そのようにして私たちは万全の態勢でお待ちしているのですが、当日の無断キャンセルや「急用で来れない」というご連絡をいただくと、「歯科の予約って患者さんにとってその程度のものなんだ」と悲しくなります。また、お仕事や学校の都合で急いで治療を終わらせなければならない患者様もいらっしゃるのですが、「このお時間をご予約の患者様がいらっしゃいますので」とお断りをしたのに当日お出でにならないと、「あの患者様がここで治療できたならよかったのに」とため息をつくことも度々あります。

そして、予約制を掲げているからには時間通りに患者様をお通ししなければなりません。ところが、腫れて痛いという急患の患者様が来られたり、こちらの処置がすれ込んだり(なかなか歯が抜けなかったり、型が1回で採れなかったり)してご案内の時間が遅れてしまうことがあるので、本当に申し訳なく思い、何度もミーティングを重ねてあれこれ工夫はしています。けれども、ご予約の時間に15分、20分と遅れてお出でになると、その日に予定していた治療ができなくなってしまったり、その後の患者様をお待たせしてしまうことに繋がりますのでできるだけお時間を守っていただきたいと思います。

今月はあれこれと一方的に書いてしまいましたが、患者様とより良い関係で最善の治療をご提供してまいりたいと思っております。いろいろなご予約や体調不良などでお出でになれないことは当然あると思います。ですが、前もってお電話をいただければキャンセル待ちの方にご連絡をすることができます。他の患者様のためにも、万が一ご都合が悪い場合は前日午前中までにご連絡をくださいますよう重ねてお願い申し上げます。



おふくろのおしめ

～偉大なる母に無償の愛の尊さと大将の道を教えていただきました～

【元アサヒビール名誉顧問・中條高德さん】

『致知』2009年4月号

連載「巻頭の言葉」より

筆者の尊敬する平辰さん（日本の台所を任ずる榊大庄の社長）の母親の実話をご紹介します。

平成17年、平さんのお母さんが天寿を全うされてこの世を去られた。この時のご挨拶のエッセンスをありのままにお伝えする。

「私たち兄弟は佐渡に生まれ、島で育ち、18歳の頃上京しました。亡くなった母は現代版『おしん』かもしれません。

祖父に子供がなかったので、末弟（私の父）が世継ぎとされ、父は海軍の軍人でしたので、船に乗っており、婿殿不在の平家に嫁いだのが母の八重でした。

（中略）

母は、子供たちのおしめ（おむつ）を古着の布の切れ端で縫い、汚れたおしめは、凍りつく川に運び、洗ってくれました。

冬の雪の降る日でした。

母のその手は、あかぎれで割れ、腫れ上がっていました。血の出ってくる割れ口には、ご飯粒を詰めることで耐えていました。

そんな手であっても、「子供には少しでも温かいおしめを……」と赤ん坊が汚したおしめを洗ってコタツで温めておいてくれました。

食事をしながら、子供におっぱいを飲ませている時など、ビリビリと下痢のうんちをし、抱っこしている母の腿が熱くなってくると、食事を中座して、そのおしめをはずし、下痢でたれたお尻を、母は舌で舐め取っては吐き出し、吐き出しながらコタツで温めてあったおしめを取り換えるのでした。

いまのように柔らかい紙はなく、紙といえば新聞紙くらいのものでした。また、柔らかい布もなく、おしめも布を縫い合わせているので、それで拭けば赤ん坊のお尻はさらに赤く腫れ上がってしまいます。

母は、「子供が痛かろう」と自分の舌で、その下痢のうんちを舐めて拭き取り、その口で再び食事を摂ることも度々ありました。

母は毎朝4時に起き、12人の家族の朝食を作りました。そのまな板のトントンという音で私は目を覚ます毎日でした。

朝食が済むと肥料の糞尿を大きな細長い肥桶に入れ、天秤棒で担ぎ、一時間もかかる蛇の多い山道を、山の田や畑に運んでいきました。足をすべらせ肥桶ごと倒れ、うんちだらけになった思い出もあります。

野良仕事は、夜8時、9時に終わることも多く、常に星を見なければ家に帰ることはありませんでした。

母が上京する時には、足が悪いのを忘れたかのように、米だ芋だと重いものにもかかわらず持ってきてくれました。

昭和57年、やる気地藏を祀った「やる気茶屋」を始めた時、50キロもある石の地藏さんを背負って佐渡からやってきてくれて、びっくりしました（筆者はこの時からの御縁）。

母が死を覚悟した時だと思われませんが、私に話しかけてきたことがありました。

『私はもう畑にも出られん。田圃にも行けん。仕事が出来なければ、人のためにならん。たとえ我が子であつても迷惑はかけたくない』

と言ひ、その後自らの食を細めて「水」のみとし、大樹が枯れるが如く心臓を静かに止めていったのだと思います。

美しい 死にかた求め 自らの 食を細めて 枯れていく

偉大なる母に、無償の愛の尊さと 大将の道をお教えいただきました」

(原文そのまま)



.....

このお話を読みながら思わず姿勢を正してしまいました。昔の日本女性の姿が目に見えてきました。今のように電化製品もない時代。冷たい新潟の冬の川でおむつを洗い、遠く離れた田んぼや畑に肥えを運び、たくさんの家族の食事の用意。ゆっくり布団に横になる時間もなかったと思います。

今の私たちの生活を振り返ると本当に恥ずかしくなってしまう。洗濯はスイッチ一つで乾燥までできてしまう。疲れた時はほか弁ですませる時も。インスタントやレトルト食品はスーパーの棚に溢れるほど。それなのに、「疲れた」、「忙しい」と口にしてしまう自分が情けなくなりました。

今やフワフワのティッシュペーパーは当たり前ですが、考えてみると私の小さい頃はちょっとごわごわした「落とし紙」しかありませんでした。ましてや戦前は柔らかい紙など一般庶民には手の届かないものであったでしょう。赤くかぶれた赤ん坊のお尻を母親が舐めてきれいにしてあげるといふ姿に後光が差して見えました。そして死期を覚悟してからは食を断ったという話に、この女性は主体的にご自分の人生を生ききった方だったのだと感動しました。

同居している私の母はこの2年間で数回骨折し、去年は3回手術を受けました。右手は今も麻痺が残っているため、箸やペンを握ることができません。それでも高校生になった次女のために6時半の出発に間に合うようにお弁当を作ってくれています(トングを使っています)。そして「あんたは仕事で疲れているから少しでも寝ていなさい」と50歳を過ぎた娘を労わってくれます。ケンカも日常茶飯事ですが、いくつになっても親は子供のことを気にかけてくれるのだとありがたく思っています。いつになったら親孝行できるか分かりませんが、親に感謝し、また子供も暖かく見守りたいと思います。



ご挨拶

毎日ジメジメとじと、梅雨明けが待ち遠しい酒見です。7月と言えば夏休みも始まりですが、皆さんはどのような予定を立てられていますか？我が家でも何かと計画をおねだりされる夏休み。去年は大分へ旅行しましたが、今年は近場の日帰り旅行を計画しています。三人息子に旅費も少しずつかかるようになるなあと思うといつまで連れて行ってあげられるか。でも、息子たちの笑顔のために母ちゃんがんばります。



あなたを笑顔にする フロイテ 3 つのお約束

1. お肌も体もアクをすっきり!!
2. フキ霈沢なお時間を!!
3. きれいな器具で安全に!!



今月の美言葉

身土不二 (しんどふじ)

先日、ある方からこの言葉を教えていただきました。その土地にあるものと体は切り離せませんという意味です。つまり、気候や風土に合ったものが育ち、旬のものを食べるということは、それらが育つまでに受けた恩恵を私たちは取り入れることができるということです。皮や根も食べることは地球のエネルギーをまさに「いただく」ことなのです。日本語の「いただきます」って、食べ物に感謝しますという心の表れなんですね。

面倒だけど、実は一番気になる!!

ムダ毛処理(*_*;

暑くなって、肌の露出度の大きい服を着ることも多い季節になってきました。オシャレも楽しくなる時季ですが、気になるのは、ムダ毛。処理するのも面倒なので、つい雑になりがちですが、方法を間違えると肌トラブルを引き起こす原因になります。正しい方法で処理をしましょう。

- ①肌がデリケートになっている時は処理しない
…体調不良時、女性は特に生理の前後は肌が敏感で荒れやすくなります。
- ②抜くのはダメ、せめて剃る…剃るのも、肌に負担がかかりますが、自宅では正しい処理方法で、トラブルを軽減しましょう。
- ③肌への負担を少なくして剃る…剃る時は、石鹸の泡などを薄くのばし、毛の流れに沿ってカミソリを当てます。毛に逆らって剃ると、肌を傷めます。
- ④剃った後は、保湿…仕上げは、火照った肌を冷やし、ローションとクリームで肌を整えましょう。

当店の脱毛メニューもおススメです。10回コースが終わるころには薄くなって見た目もきれいに、ご自分でのケアもとっても楽になりますよ。

スタッフ日記

最近、歯科スタッフの皆さんもいろいろとメニューを利用してくださってます。せっかくなので、ホームページ用の写真を撮っちゃおう♪と、協力してもらい、ちょっとずつ施術中の写真を撮りためているところです。誰の、どんな写真をホームページに載せるかは、こちらの好みかな(笑)
この衛生士さんかなあとか、あの人かなあとか。皆さんも想像して楽しんでみてください。



← (注) これは
いけません!!